



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJ IR Day 2022

板事業の現況と展望

専務執行役員 板事業本部長 田口 正高

2022年6月9日
株式会社UACJ



板事業全体の現状と展望



世界3極供給体制を活かしグローバルで150万トン/年の供給を目指す

日本 : 構造改革の完遂

構造改革完遂による損益改善と
重点品種の拡販、環境対応

TAA ^{※2} : 旺盛な北米需要の獲得

収益性を維持、先行投資の回収を目指す

UATH ^{※1} : 33万トンの生産

現有設備の徹底活用による
生産、販売量の最大化

板事業本部

3極運営体制
製造補完による生産最適化、最大販売

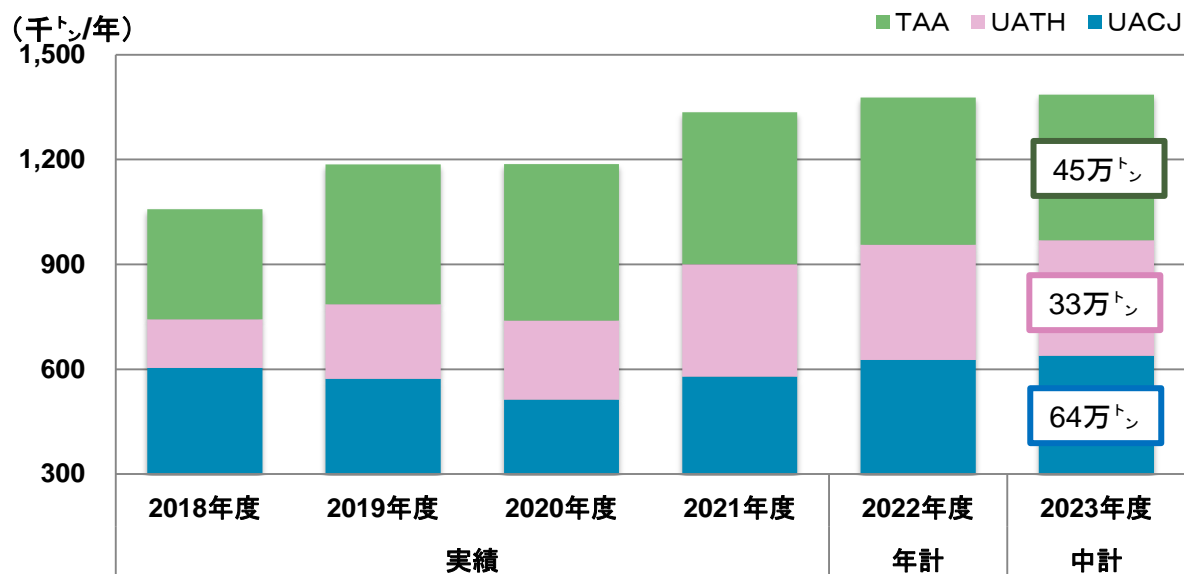
※1 UATH: UACJ(Thailand) Co.,Ltd

※2 TAA: Tri-Arrows Aluminum Holding Inc.

板事業3極合計の販売量と経常利益の推移

堅調な需要を背景に、板事業3極合計の販売量・経常利益が増加

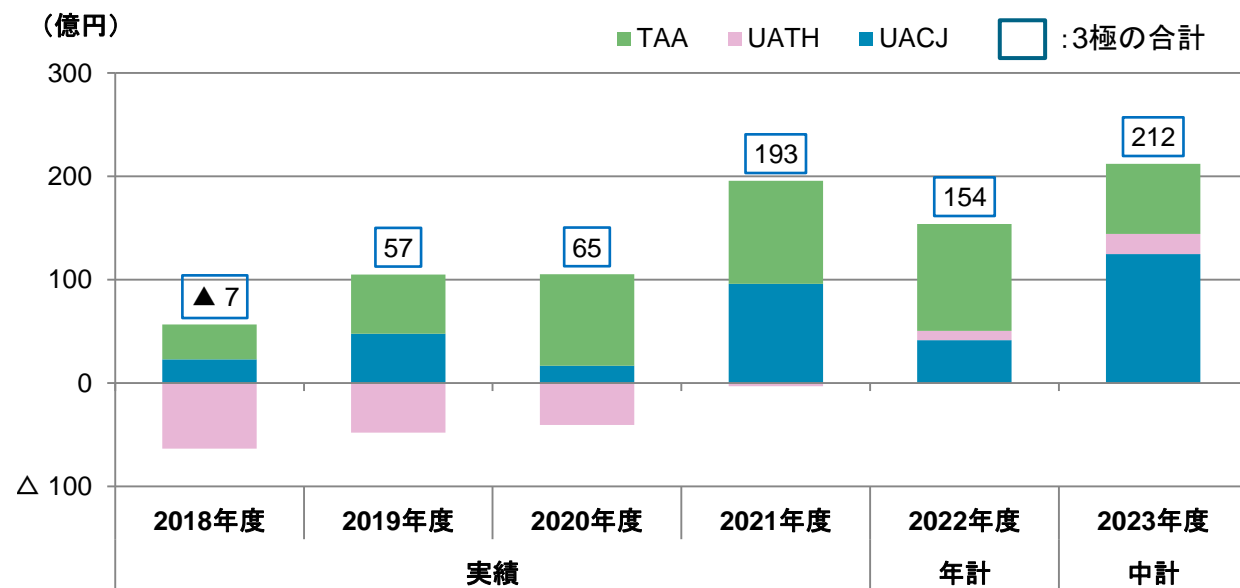
年度別国内外3拠点の販売量推移



2022年度～2023年度 140～150万トンへ

将来 3極トータルで150万トン体制へ

板事業 3極の棚卸資産影響除き経常利益

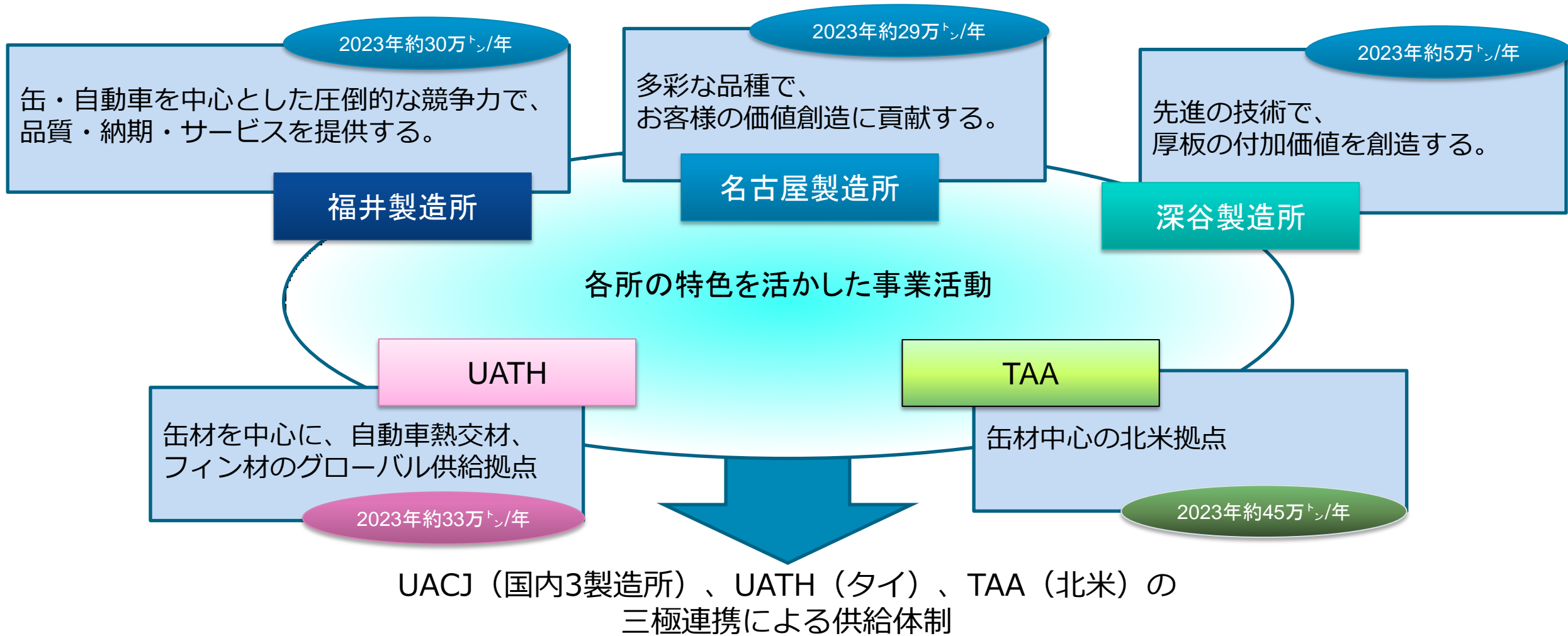


販売量増加

経常利益改善

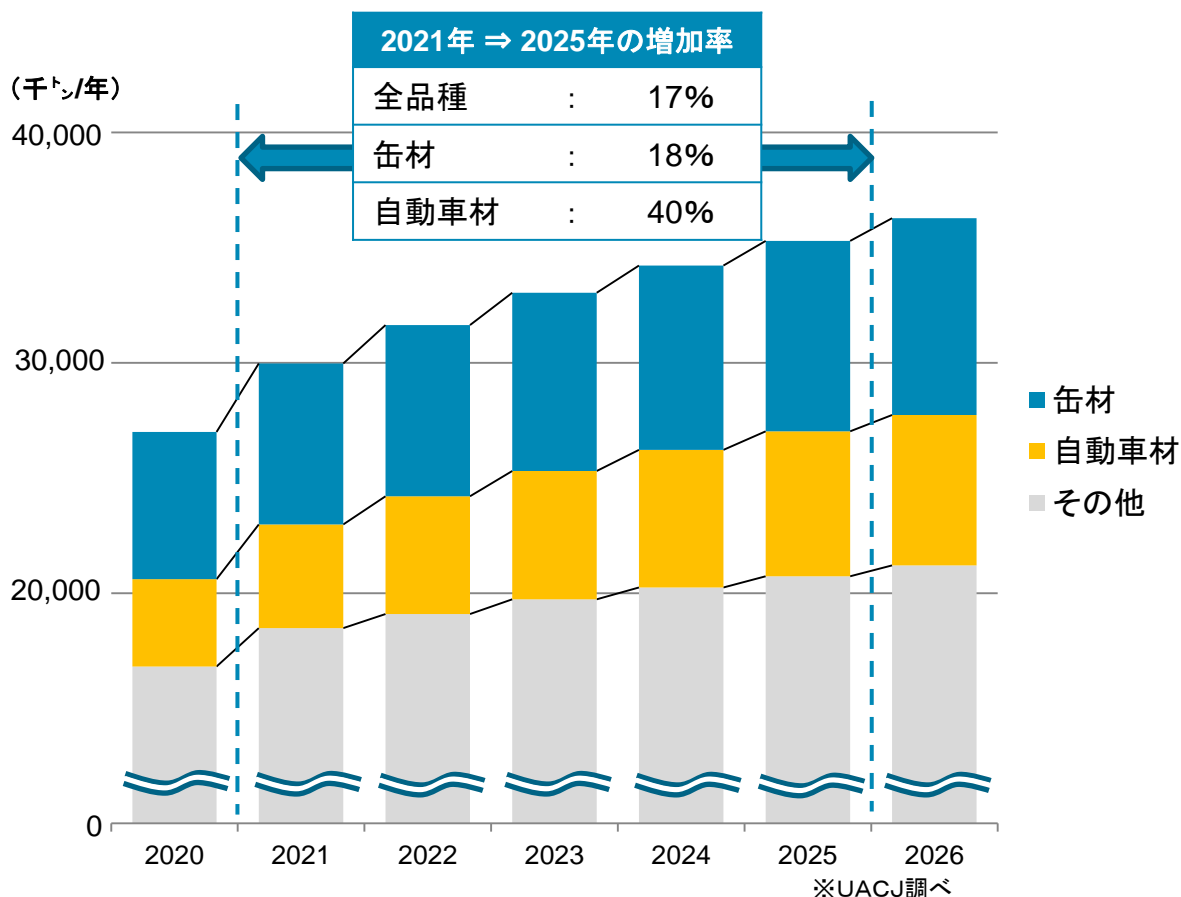
国内各製造所、UATH、TAAの特色

多彩な顧客層、ニーズに合わせた様々な製品設計力、生産能力を生かした事業展開



グローバルでアルミ需要は年々増加

グローバルでのアルミ需要見通し



アルミ需要増加の背景

全体需要が増加、特に缶材、自動車材の伸びが大きい

缶材:

- ・人口増加に伴う飲料缶需要増
- ・環境配慮型の飲料容器としての評価

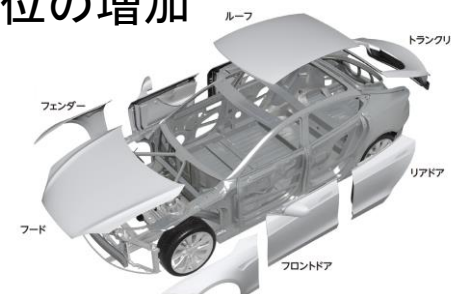
リサイクル



自動車材:

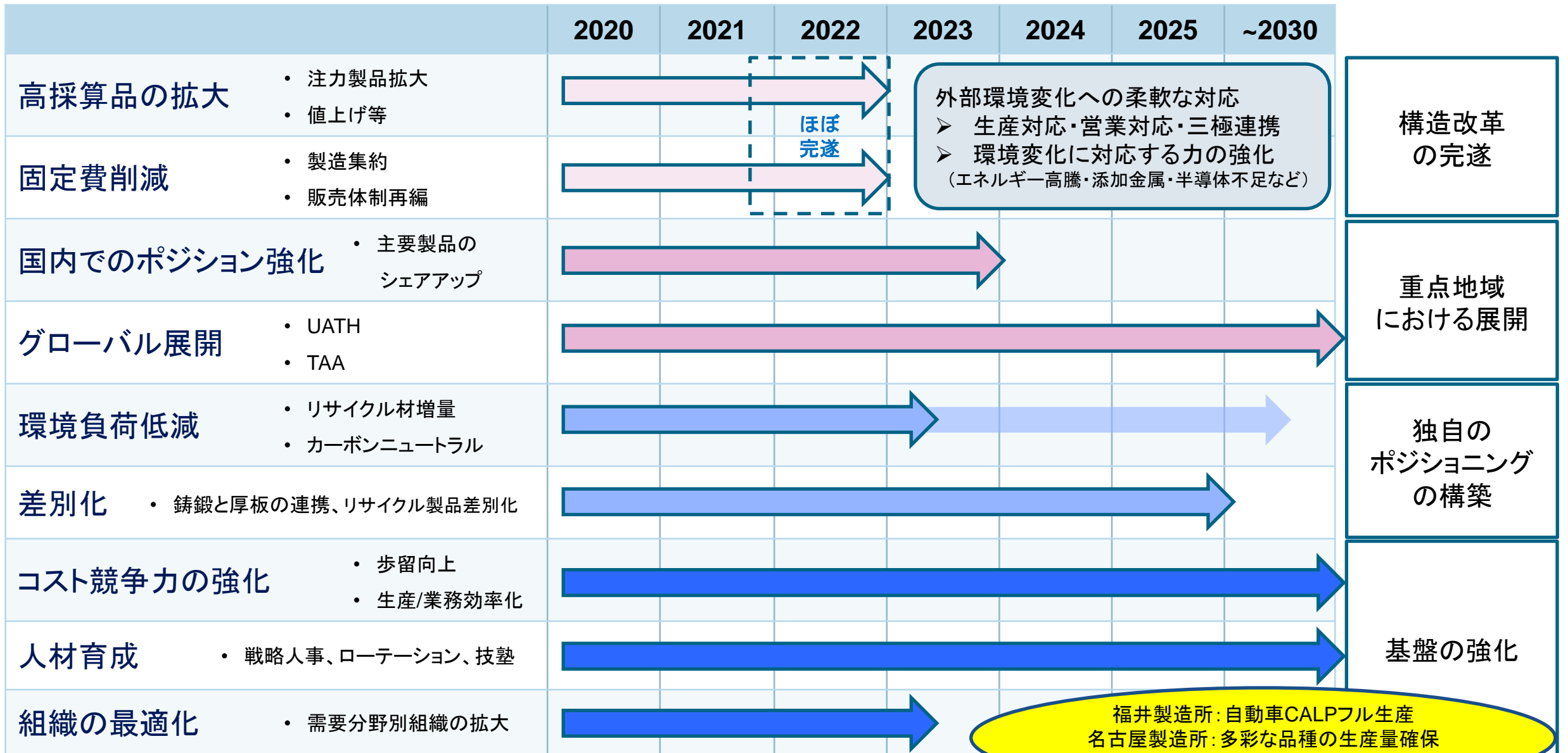
- ・軽量化ニーズでアルミ採用車種・部位の増加
- ・EV化による電池関係の需要増

カーボンニュートラルに貢献



国内板事業について

中期計画 施策のロードマップ

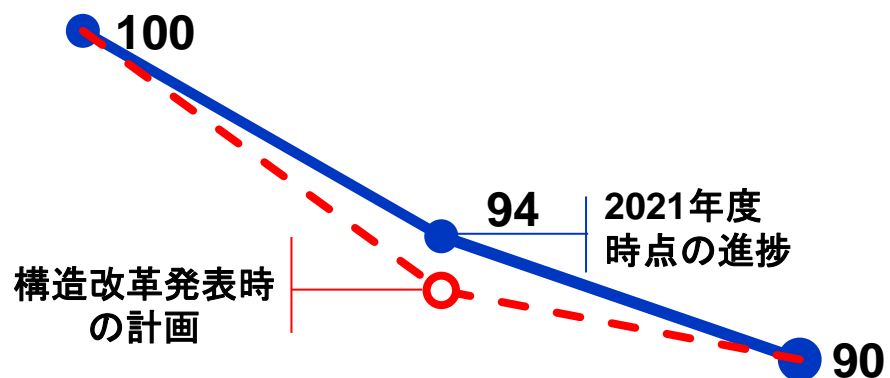


福井製造所: 自動車CALPフル生産
 名古屋製造所: 多彩な品種の生産量確保
 深谷製造所: 厚板中心の能率向上

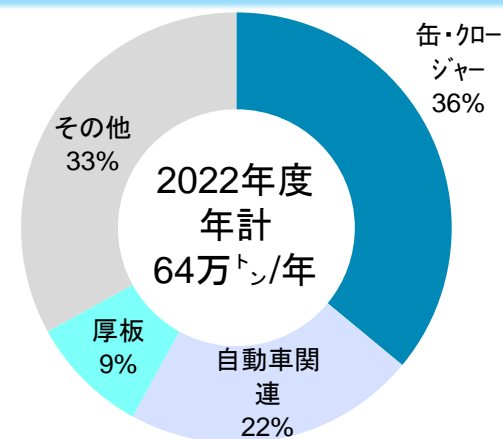
国内 2022年度 販売重点方針

稼ぐ力をつけ、主力の缶材・自動車関連材・厚板を中心に国内3製造所合計で64万ト/年を目指す

損益分岐点の変化(2019年度を100とした時の指数)



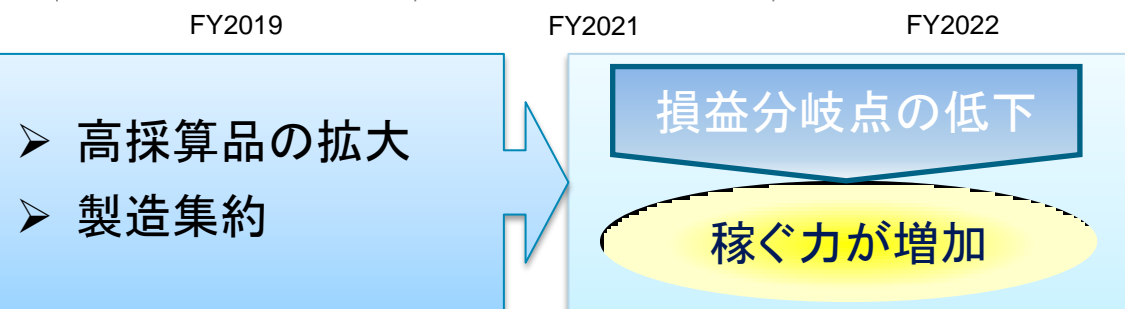
国内販売品種構成と2022年度主力品種の方針



缶材 ・国内・輸出とも受注推進。
・顧客と協働でリサイクル推進。

自動車関連材 ・福井製造所での安定生産。
・環境負荷低減材の提案。
※リスク要因: 半導体不足、上海ロックダウン影響を注視

厚板 ・旺盛な半導体製造装置需要の取り込み。
・将来の燃料運搬船需要の取り込み。

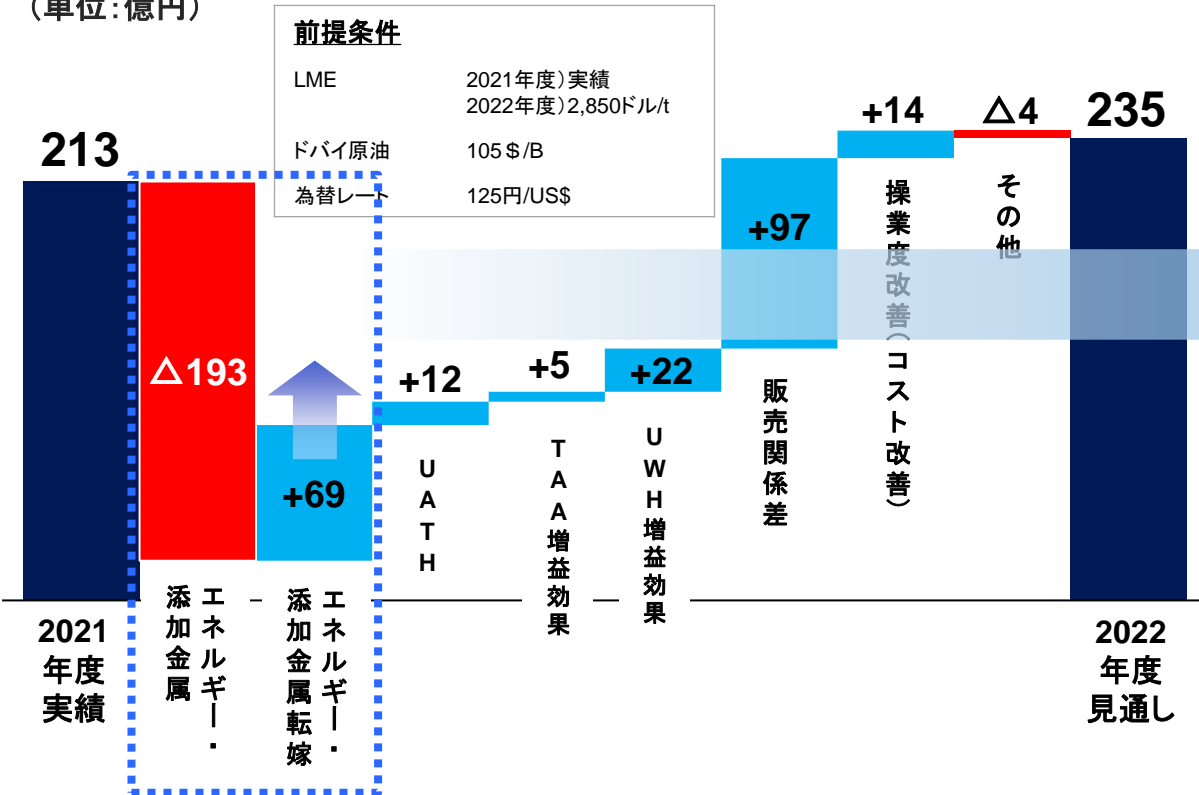


エネルギー価格、添加金属の高騰に対する打ち手

エネルギー価格、添加金属の変動に対して、価格設定方法の見直し

FY21~22 連結経常利益増減（棚卸資産影響除く）

(単位: 億円)



エネルギー価格、添加金属の価格変動対策

エネルギー価格、添加金属の高騰
⇒ 経常利益の減少要因

- ✓ エネルギー
 - ✓ 添加金属
- 価格変動に対応したスキーム構築

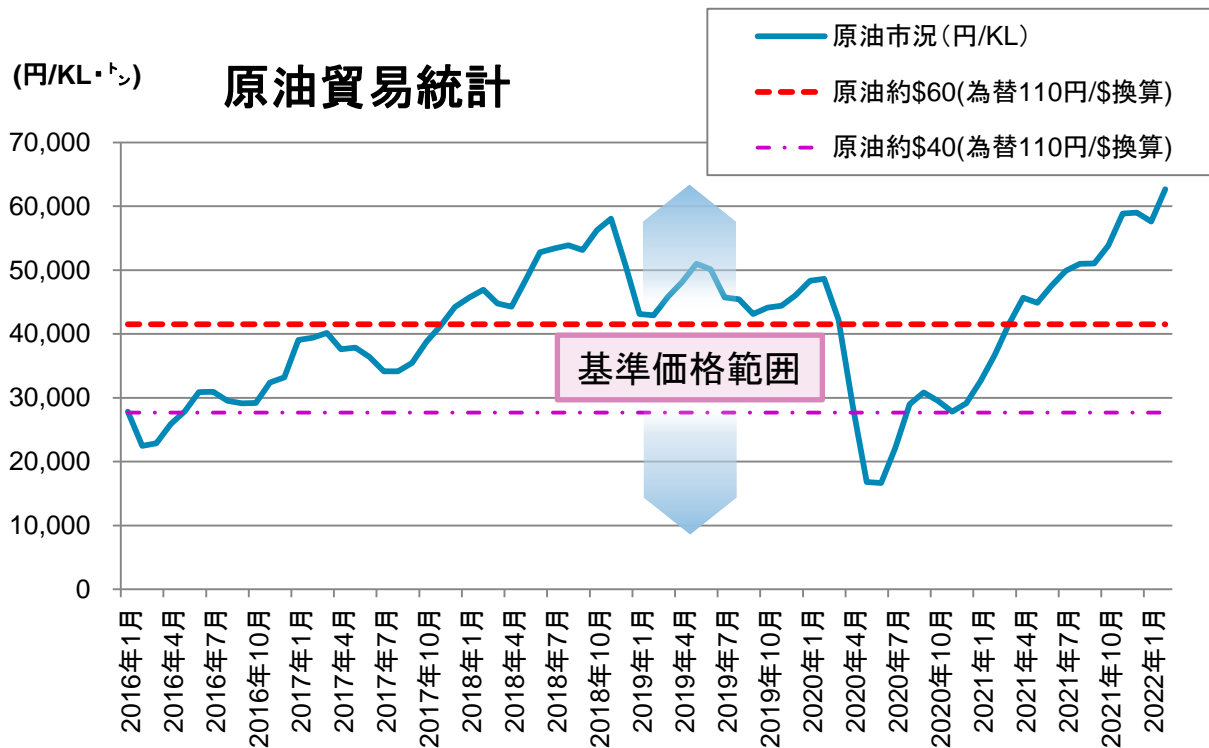
2022年度: 価格高騰影響分の約1/3を取り戻す計画
(速やかな価格転嫁を実施する)

2023年度以降: 価格スキーム構築効果が増加

エネルギーサーチャージ制の導入

エネルギー価格の相場変動によるコスト増減分を製品ロールマージンに付加する仕組みを導入

エネルギーサーチャージ制について



(1)対象製品

- ・アルミ板製品 全品種

(2)基準価格

- ・原油およびLNGの財務省貿易統計を利用
- ・過去平均水準の原油\$40-60/バレル水準を当社負担水準
- ・当社負担水準から上昇分を取引価格へ反映

(3)適用価格の値決め期間

- ・価格の改定期間はお客様との取り決めに合わせて、四半期もしくは半年に一度改定。

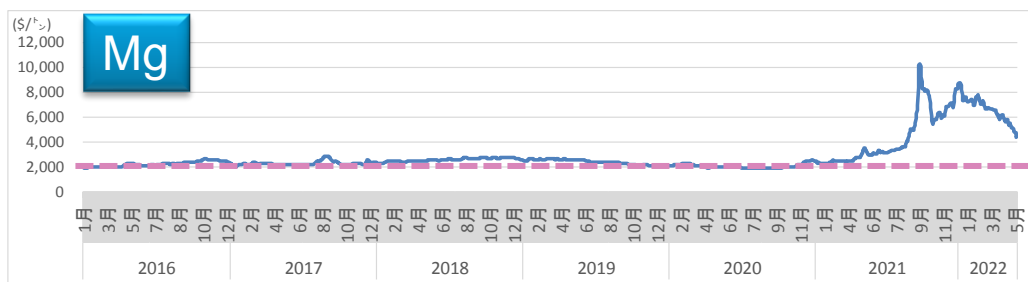
(4)開始時期

- ・2022年7月より順次

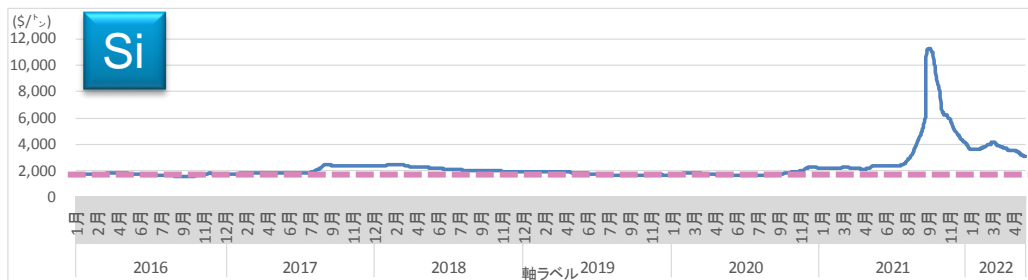
添加金属フォーミュラー制の導入

添加金属の相場変動によるコスト増減分を製品ロールマージンに付加する仕組みを導入

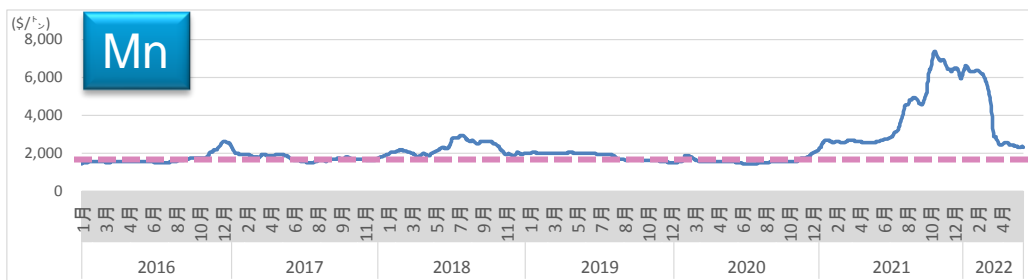
添加金属フォーミュラー制について



基準価格



基準価格



基準価格

(1) 価格転嫁対象

- ・Mg, Si, Mn の3元素

(2) 基準価格

- ① “Asian Metal”を相場値決めの指標に利用
- ② 各元素 高騰前の相場を基準に上昇分を転嫁

(3) 適用価格の値決め期間

- ・価格の改定期間はお客様との取り決めに合わせて、四半期もしくは半年に一度改定。

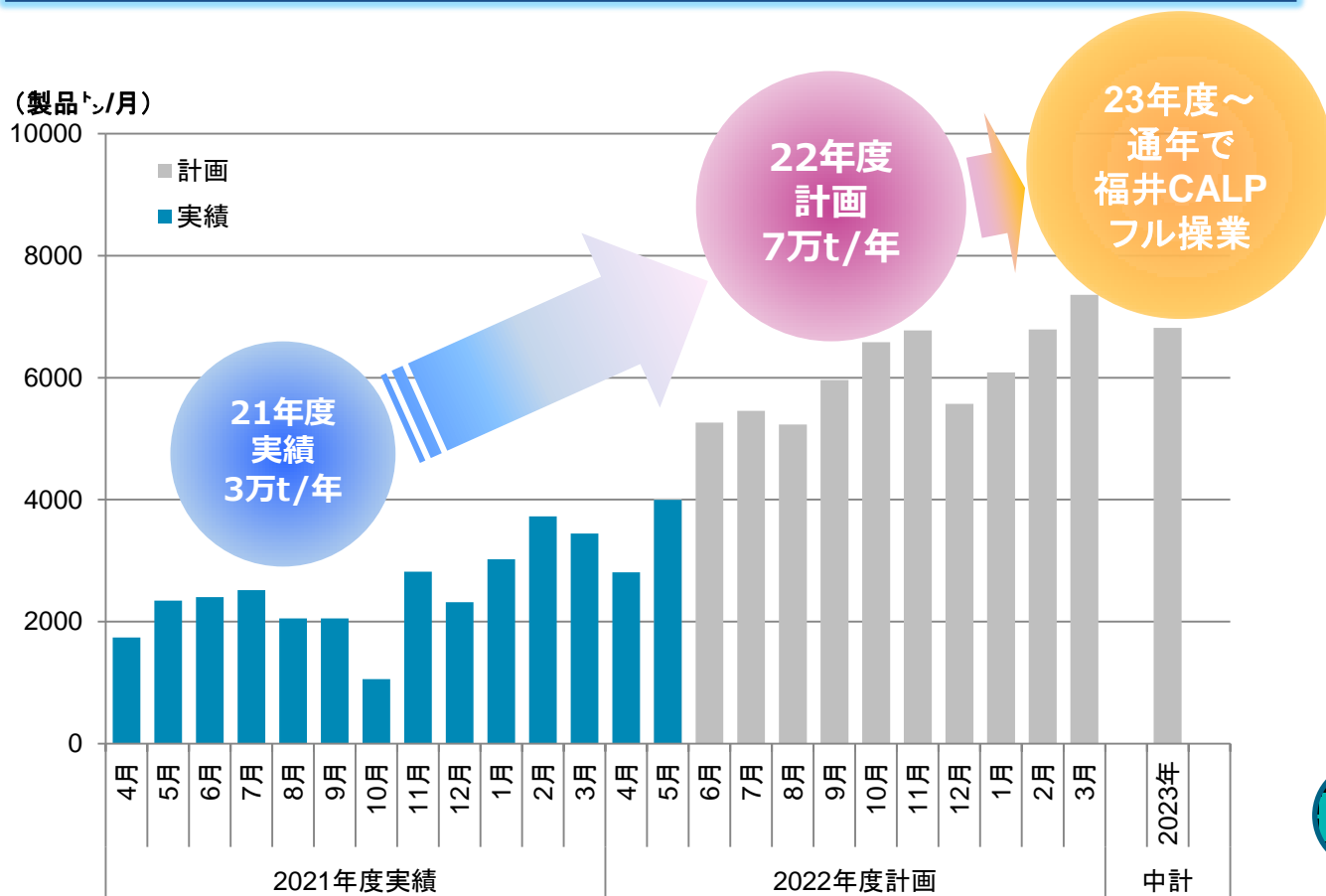
(4) 開始時期

- ・2022年4月より順次

自動車材生産の福井製造所集約と効果

自動車材の福井CALP集約が2022年度中に完了

福井製造所 自動車材生産量



➤ 自動車材生産の福井製造所集約によって…

福井製造所

缶・自動車を中心とした圧倒的な競争力で、品質・納期・サービスを提供

名古屋製造所

多彩な品種で、顧客の価値創造に貢献

深谷製造所

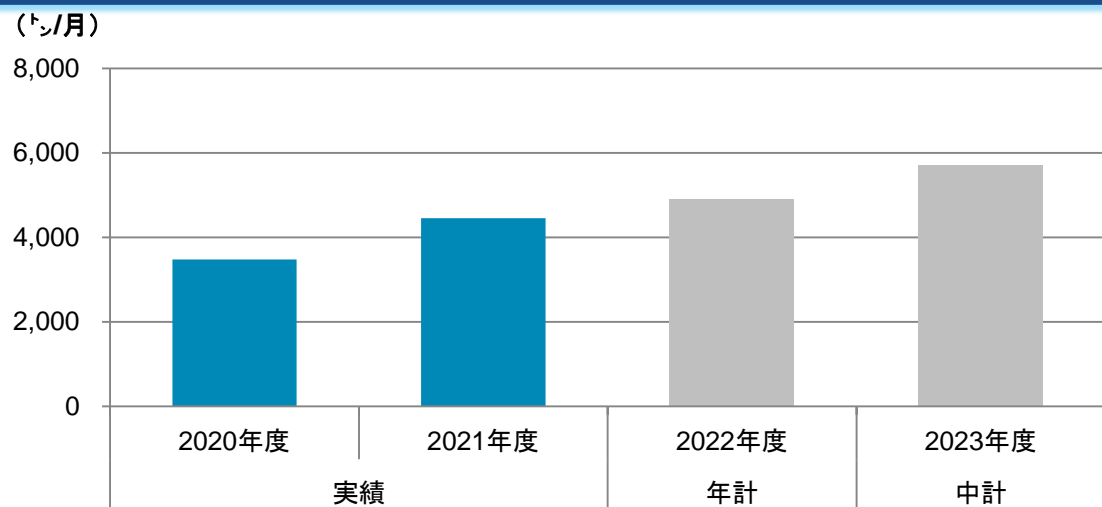
先進の技術で、厚板の付加価値を創造

特色を活かした生産体制 ▶ 生産能力・提供価値最大化

厚板の増産体制構築

半導体製造装置向け・燃料運搬船等の旺盛な需要に対応すべく、厚板生産能力を大きく向上

厚板販売量実績と見込み



半導体製造装置の需要状況(UACJ調べ)

2021年度実績 : 対前年度40%の伸び

2022年度見込み : 対前年度20%の伸び

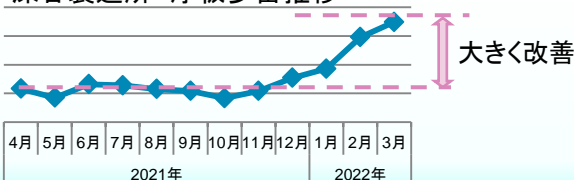
厚板販売増への製造対応

深谷製造所

増産施策
歩留改善

生産能力向上

深谷製造所 厚板歩留推移

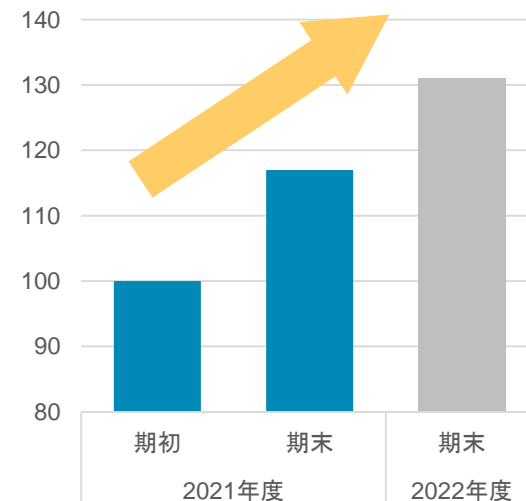


福井製造所

厚板生産体制を更に整える

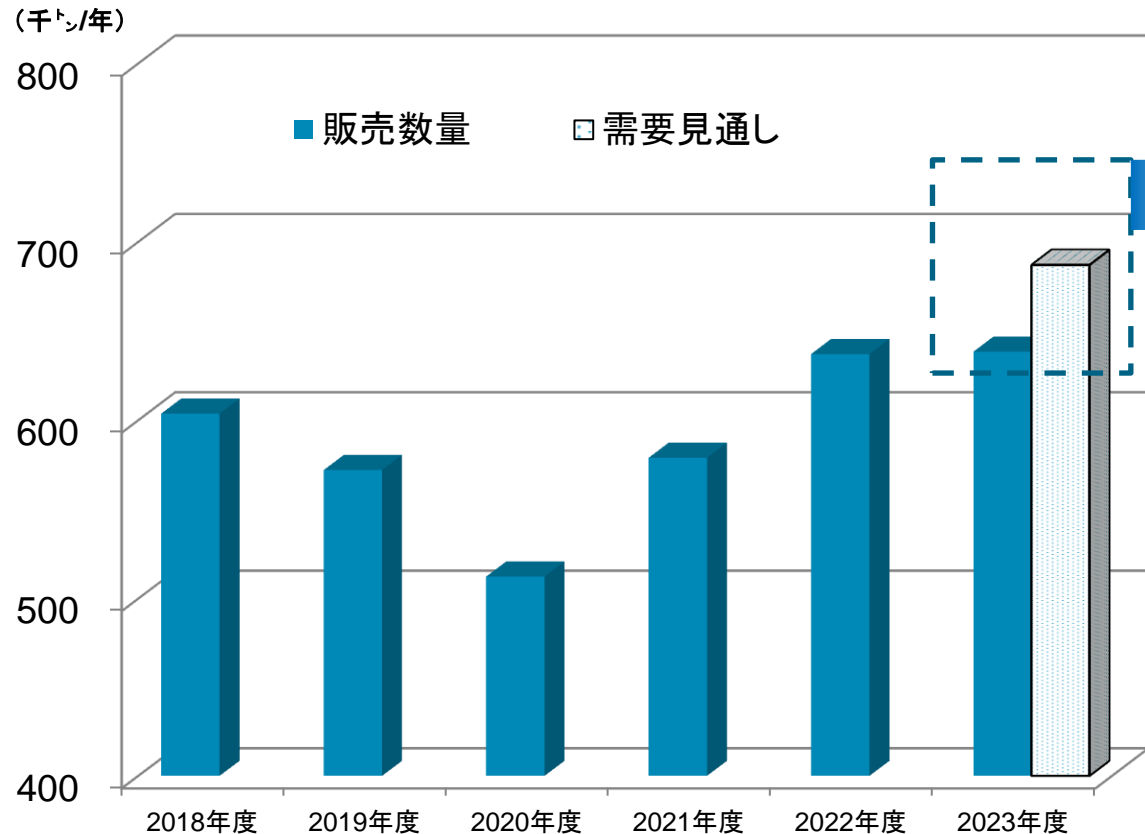
厚板生産能力推移

(2021年度期初を100とした時の指数)



2023年度以降も引き続き堅調な需要を見込む

2023年までの販売数量と需要見通し



利益最大化に向けた取り組み

需要見通し > 能力上限 → 販売と生産構成の最適化

- ①主力の缶材・自動車材需要の取り込み
- ②堅調な半導体液晶製造装置需要の取り込み
- ③低採算品種、陥没価格の是正

2025年度、2030年度に向け

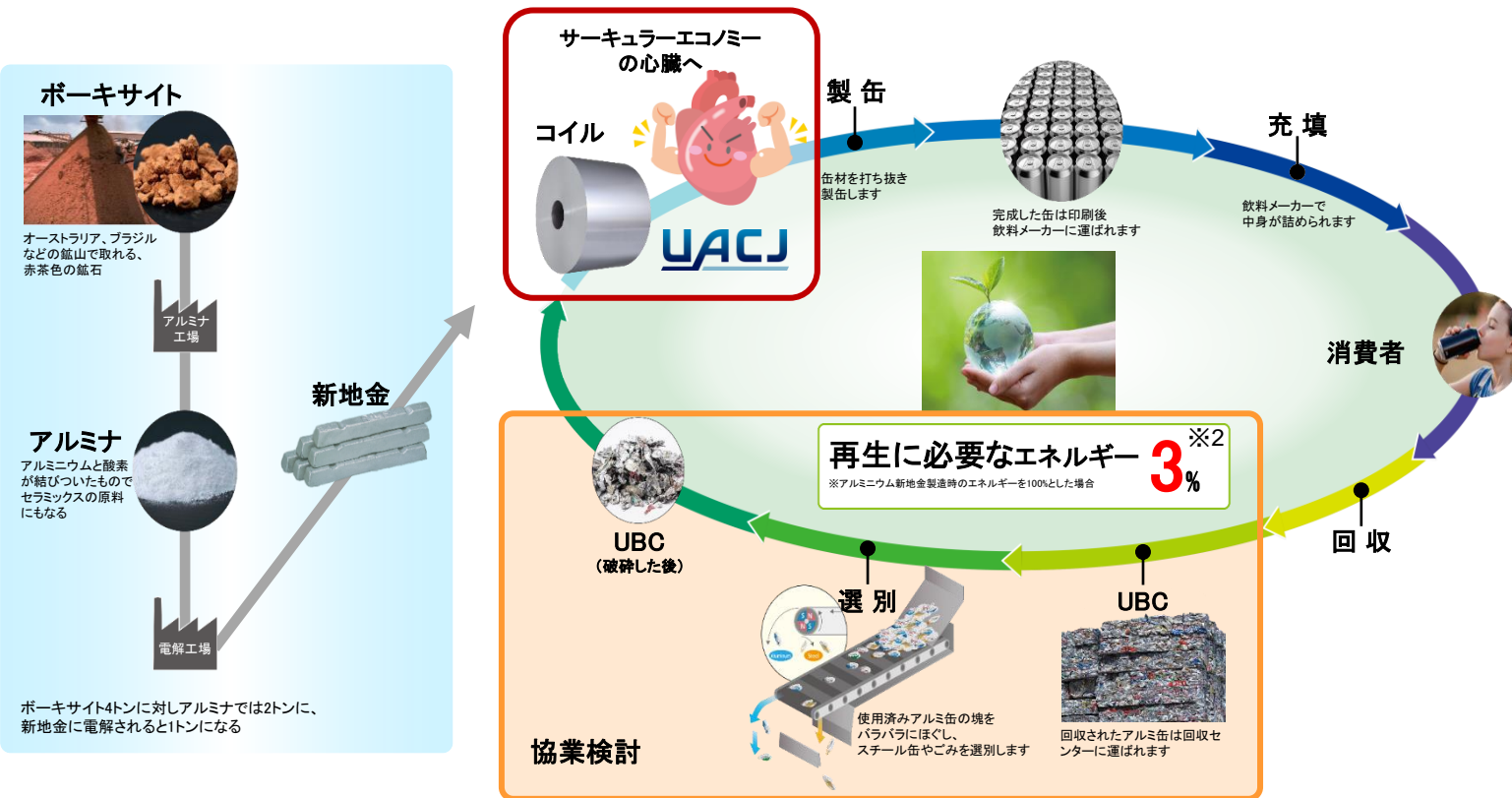
能力最大利用 × 生産販売最適化 = **利益最大化**
(能率向上、ロット改善、販売適正化など)

リスク要因

・半導体不足
・コロナ影響 } サプライチェーンの混乱など引き続き注視

サステナビリティに対する取り組み

アルミ缶のクローズドループリサイクルの確立に貢献



- 山一金属株式会社とUBC^{※1}加工処理の協業に向けた基本合意書を締結
- 長期経営ビジョン「UACJ VISION2030」製品ライフサイクルでのCO2削減、環境負荷の軽減に貢献することが目標
- UBC使用量を増やし、リサイクル促進・CAN TO CAN率の向上へつなげる

※1 UBC: 使用済み飲料缶 (Used Beverage Can)

※2 日本アルミニウム協会VISION2050掲載値より算出

ASI認証取得

日系アルミ圧延メーカーで初となるASI認証を取得(福井製造所・UATH)

【ASIとは】

- 持続可能な社会へ、アルミニウムの貢献の最大化のための認証機関
- アルミニウムの責任ある生産、調達、管理を共同で促進することを目指す

asi Aluminium
Stewardship
Initiative



ASI認証取得

福井製造所



UATH



国際的に認められESG対応企業として

- 社会のサステナビリティ向上に貢献
 - 顧客の信頼確保
 - ビジネス機会の獲得
- を目指す



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界